

国語 第5学年 たがいの立場を明確にして、話し合おう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校の国語の授業づくりを手伝う役です。この後に続く「よりよい学校生活のために（第5学年・話すこと・聞くこと）」の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。

先に、次の五つを一つずつ質問し、私の答えを待ってから次の質問に進んでください。まとめて聞かないでください。

一、学級の人数と、グループの組み方。

二、既習のこと。第4学年までに経験した話し合いの単元と、司会や記録をどのくらい子どもが進められるか。

三、この学級の子どもの実態。自分の意見を言えない子、相手の案を否定しがちな子、意見の対立を避ける雰囲気、などの実態。

四、この単元に使える時間数と、研究授業にする時間（何時間目か）。

五、使える道具。一人一台の端末があるか、アンケートを端末で取れるか、大型画面があるか、紙だけか。

五つの答えがそろったら、学習指導案を次の決まりで直してください。

学習指導要領の文言、評価規準の文末（「～している」「～しようとしている」）は変えない。

教科書の話し合いの例とコラムの文は引用しない。必要な所は「先生が教科書から書き入れる」と書く。

話題は学校生活の中の物とし、特定の子や学級を責める話題は例に出さない。

時間数は私が答えた数に合わせ、削ったり足したりした時間がどれかを一覧にする。

本時の展開は、人数と道具に合わせて、グループの数、進め方、使う物を書き直す。

つまりきへの手当ては、私が答えた実態に合わせて具体的に書き直す。

直した所の一覧を最後に付け、どの答えを根拠に直したかを一行ずつ書く。

文章は先生がそのまま使える言い方にし、比喻や決まり文句を使わない。

出力は、学習指導案と同じ見出しの順で全文を出してください。

直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名「たがいの立場を明確にして、話し合おう」教材名「よりよい学校生活のために（コラム「意見が対立したときには」を含む）」

2 単元の目標

情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う（(2)イ）。目的や意図に応じて話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして伝え合う内容を検討し、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる（A(1)ア・オ）。言葉がもつよさを認識するとともに、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（(2)イ）

〔思考・判断・表現〕①「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。（A(1)ア）

〔思考・判断・表現〕②「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。（A(1)オ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①粘り強く、互いの立場や意図を明確にし、学習の見通しをもって、よりよい学校生活のために計画的に話し合おうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

本単元は、学校生活の中から解決したい課題を選び、グループで解決の案を出し合って、互いの立場や意図をはっきりさせながら話し合い、考えをまとめる単元である。学習指導要領第5学年及び第6学年のA(1)オ「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること」を中心に置き、話し合う前の準備に当たるA(1)ア（目的や意図に合わせて話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして伝え合う内容を検討すること）を合わせて扱う。言語活動はA(2)ウ「それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動」に当たる。学校生活の課題は子どもにとって身近で、一人一人が自分の案をもつので、立場の違いが自然に生まれる。案の根拠になる材料（アンケート・観察・聞き取りなど）を集め、図に整理して関係付けることが、(2)イ「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方」を使う場面になる。コラム「意見が対立したときには」は、立場が分かれた時に話し合いをどう進めるかを確かめる材料として使う。第4学年までに学んだ、司会などの役割を意識し、共通点や相違点に着目して考えをまとめる学習（〔第3学年及び第4学年〕A(1)オ）を受け、本単元では、立場の違いの奥にある意図まで確かめて話し合う。同じ指導事項は第6学年でも扱う。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、立場を「案」として提案カードに書かせ、案・理由・根拠の材料の三つをそろえてから話し合いに入る。意図は「その案で何を大事にしたいか」と言い換えて、質問で確かめさせる。また、「計画的に」を形にするため、話し合いの計画（目的の確認→案と理由→質問→比べる→まとめる→決まったことの確認）を子どもが前もって立て、計画表に印を付けながら進める。そして、考えを「広げる」段階と「まとめる」段階を分け、まとめる時は、一つを選ぶ・合わせる・条件を付ける・順番を付ける、などの方法から目的に合う物を選ばせる。自分の立場を理由と根拠で示し、相手の意図を確かめる質問をし、目的に照らしてまとめる発言がある姿を「おおむね満足できる」状況、対立した案の意図を比べて、両方の意図を生かした案や条件を付けたまとめを提案する姿を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画（全6時間）

第1次 第1時：○学校生活の中で、よりよくしたいこと（話題）を出し合い、グループごとに話し合う話題と目的を決める。○学習の見通しをもつ。 評価：態①（観察）

第2次 第2時：○自分の案（立場）を決め、案の理由と、根拠になる材料（アンケート・観察・聞き取り など）を集める。 評価：思①（提案カード・メモ）

第2次 第3時：○集めた材料を図に整理し、分類したり関係付けたりして、自分の案と理由を見直す。 評価：知①（図・提案カード） 思①（提案カード）

第2次 第4時：○話し合いの計画（目的の確認→案と理由→質問→比べる→まとめる→決まったことの確認）を立てる。○コラム「意見が対立したときには」を読み、立場が分かれた時の話し合いの進め方を確かめる。

第2次 第5時（本時）：○グループで話し合う。互いの立場と意図を確かめながら考えを広げ、目的に照らしてまとめる。 評価：思②（観察・話し合いメモ）

第3次 第6時：○グループで決まった考えを学級で報告し合う。○話し合いの進め方を振り返り、立場や意図を明確にするために役立った言い方をまとめる。 評価：思②（報告） 態①（振り返り）

6 本時の指導（5／6）

(1) 本時の目標

よりよい学校生活のための話し合いで、互いの立場や意図を明確にしながら計画に沿って話し合い、考えを広げたりまとめたりできる。（A(1)オ）

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：1 話し合いの目的と計画を確かめる。

○「今日の話し合いで、何を決めますか。どの順で話し合いますか」

【めあて】立場と意図をはっきりさせて話し合い、よりよい学校生活のための考えをまとめよう。

2 前時に確かめた、立場が分かれた時の進め方を確かめる。

予想される児童の反応：・～を減らすための取り組みを決める。

- ・案と理由を出す、質問する、比べる、まとめる、の順に話し合う。
- ・意見が分かれたら、目的に戻って考える。

指導上の留意点：・グループの計画表を机の上に置かせ、今どこを話しているかに印を付けさせる。

- ・立場が分かれた時の進め方は、前時に学級で確かめた言葉を黒板に掲示しておく。コラムの言葉は先生が教科書から書き入れる。

【展開】

学習活動：3 グループで話し合う。

- (1) 一人ずつ、自分の案と理由、根拠になる材料を言う。
○「あなたの案は、何を大事にした案ですか」
- (2) 互いの案の意図を確かめる質問をする。
○「その案にしたのは、どんなことを大事にしたいからですか」
- (3) 案を比べ、考えを広げる。
○「それぞれの案の意図に、共通する所はありますか。対立している所はどこですか」
- (4) 目的に照らして、考えをまとめる。
○「目的に合うように考えをまとめるには、どの方法がよいですか（一つを選ぶ・合わせる・条件を付ける・順番を付ける など）」

4 まとめ方の違うグループの話し合いを、全体で聞き比べる。

- 「このグループは、対立した意見をどうやってまとめましたか」

予想される児童の反応：・わたしの案は～で、理由は～だからです。アンケートでは～という結果でした。

- ・～さんの案は、安全を大事にしているのですね。
- ・どちらの案も、みんなが気持ちよく過ごせることを目指している所は同じだ。
- ・～さんは楽しさを、～さんは安全を大事にしている所が対立している。
- ・二つの案を合わせて、～にしたらどうか。
- ・～という条件を付ければ、～さんの案でもよい。

- ・意図を確かめたら、対立していないことに気付いた。
- ・目的に戻ったら、まとめ方が決まった。

指導上の留意点：・案を言う時は、提案カードの「案」「理由」「根拠の材料」の順で言わせる。

- ・反対だけを言う子には、「相手の案は何を大事にしているか」を先に言い直させる。
- ・立場の違いを人の違いにしないよう、意見と人を分けて話すことを確かめる。
- ・話し合いが計画からそれたら、計画表の印を見て戻るよう促す。
- ・発言しにくい子には、提案カードを読み上げてから話してよいことにする。
- ・先生はグループを回り、意図を確かめる質問と、まとめ方を選ぶ発言を記録する。
- ・まとまらないグループは、決まったことと決まっていないことを分けて報告させる。結論が一つにならなくても、考えが広がったことを価値付ける。

評価：思② 互いの立場や意図を確かめながら計画に沿って話し合い、目的に照らして考えを広げたりまとめたりしている。（観察・話し合いメモ）

【まとめ】

学習活動：5 本時の学習を振り返る。

- 「立場や意図をはっきりさせるために役立った言い方は、どれですか」

【まとめ】互いの案の意図を確かめてから比べると、対立した意見も、まとめ方を選んでまとめられる。

6 次時は、決まった考えを学級で報告することを知る。

- 予想される児童の反応：・「何を大事にした案ですか」と聞いたら、対立していないと気付いた。
- ・条件を付けるまとめ方が使えた。

指導上の留意点：・振り返りは「役立った言い方」「次の話し合いで使いたいまとめ方」の二つで書かせる。

- ・話し合いメモと計画表を回収し、評価に使う。

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

上段左に日付・単元名・めあて。上段右に話し合いの計画（目的の確認→案と理由→質問→比べる→まとめる→決まったことの確認）。中段左に、立場をはっきりさせる言い方（「わたしの案は～、理由は～」 「～を大事にした案ですか」）。中段右に、立場が分かれた時のまとめ方（一つを選ぶ・合わせる・条件を付ける・順番を付ける）。下段に、全体で聞き比べたグループの話し合いを、案と意図を図にして並べ、共通点を線で結び、対立点に印を付ける。右端にまとめと振り返りの観点。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

